

令和2年度 第2回 高精度測位社会プロジェクト検討会
議事要旨

1. 日時：令和3年3月15日（月）10：00～11：30

2. 場所：Web会議開催（WebEX）

3. 議事

（1）今年度の取組み成果について

（2）自治体・民間事業者の成果について

（3）次年度に向けて

4. 議事要旨

議事（1）について

事務局より説明後、出席者より以下の発言がなされた。

・屋内空間データが利用され始めてから10年経った。コロナで企業もビジネスモデルを変える必要が出て来ているが、今後屋内空間の活用は確実に進むと考えられる。そのような中、効果やメリットを示すのに、ガイドブックと静止画のパワーポイントしかないのが現状だ。来年度以降は動画コンテンツなど訴求力のあるツールを揃えるとよい。

・ガイドラインに沿って地図を作成する場合、どのくらいの手間と時間がかかるのか。そのような目安も追記しておくことで予算確保に役立つ。今回のガイドラインの中ではそのような情報も収集されているのか。

（事務局回答）

目安になる工数などは事例集に追加していく予定。

議事（2）について

発表者より説明の後、出席者より以下の発言がなされた。

・先週楽天が日本郵政と手を組んだが、これにより楽天は24000局の郵便局を使えるようになる。障がい者の方向けにネットワークや発想を広げるためにはこのように横断的に手を組まなければいけない。清水建設が仰ったように、国交省のプロジェクトが機会を提供することに意義がある。

<新宿駅における屋内案内誘導に関する実証実験「新宿ナビ歩[®]」について>

・今回実証実験で作成した屋内のナビ機能はジョルダンで今後一般利用される見込みはあるのか。

(東京都 回答)

今年度実証実験を実施した成果を活かし、来年度東京 2020 大会時にアプリの本格リリースを行う予定である。

<屋内測位技術を活用した「音声ナビゲーション・システム」について>

(事務局 質問)

・高精度測位社会プロジェクトを推進している事務局の立場で、これまで実証実験を行ってきたフェーズから民間事業者の実装ベースにいかに移行していくかが大きな課題であると考えている。清水建設様の取組みは民間主導でサービス展開されている先進的な事例だ。取組みを行った立場から、民間企業としてナビゲーションシステムを整備するメリットがあれば教えてほしい。

(清水建設 回答)

・事業として成立しているのかと聞かれると厳しいところではある。建物や地下街が大きくなって、経済効率を求めると建物自体が複雑化し、視覚障がい者の方の話を聞くと歩きにくい構造になっているという意見をいただいたため、これを解決するために行った。

また、一部エリアごとにそれぞれ別のアプリを持つのが嫌だというユーザーの声もあり、このようなサービスは面的に広がっていかないといけない。他の屋外のナビゲーションアプリと連携していかなければならないと痛感している。

・日本橋コレド室町で三井不動産様と一緒に行って良かったことは、ナビゲーションに関してノウハウがたまることでナビタイム様や Google 様など色々な方とお話しができたことである。坂下様が仰っていたように将来の自動運転社会やロボット運用にも繋がってくる展開があると思う。

・本来は日本橋地区で、パラリンピックがあった時に対応できるように整備して、オリンピックのレガシーの一つとして歩行者向けのナビゲーションを構築する構想があった。ビーコン設置を先行して行ってきて、メリットを強く言えず残念ではあるが地道にやってきたことが最近では皆様の共通の話題になってきている。そのためにも共通のプラットフォームがあった方が良い。

(事務局)

これから高精度測位社会プロジェクトの展開のフェーズを少し変えていかなければならないと考えており、事業者の連携の在り方や国の関与の仕方など今後もご示唆いただきたい。

＜ICT を活用した歩行者移動支援の推進＜バリアフリー・ナビプロジェクト＞について＞
・歩行者移動支援の発表に関して、今後ビックデータを使う時にはバリアフリーや歩行者の屋内、駅が中心としたデータとなるのか。

・コロナのアプリでも GPS を使用したビックデータが人の流動として使われているが、基本的には屋外が中心となり、モバイル系のデータを活用して屋内となると、データがあまりないが、そこは何で埋め合わせるのか

・ユニバーサルネットワークやバリアフリーよりは GPS データの交通分野での新たな利活用を開拓するのでしょうか。

(総合政策局総務課(政策統括官付) 回答)

・今想定しているのは、屋外の行動分析である。最近コロナでテレビを見ていると渋谷駅周辺の混雑具合などは、携帯電話の位置情報のデータを使用し分析しているようだ。本取組では、交通の分析に主眼を置いている。車、電車、飛行機など様々な移動手段があり、行動を紐解く分析が課題である。世界的にも取組みが始まったばかりでもあるが、これから必要となってくる要望が強いため次年度実証実験を検討中だ。今後、屋内でも交通分析の需要が出て来れば、GPS や基地局のデータ等を組み合わせることで、屋外だけではなく屋内向けの分野も検討していきたい。

・歩行者移動支援がメインだが、歩行者移動支援やバリアフリーで領域を閉じてしまうとなかなか広がらない。ビジネスと繋げて、将来的には国ではなく民間主導で進める取組みになるプラットフォーム作りが必要だと考える。バリアフリー情報などの情報を整理するだけではなく、観光分野やビジネスに繋がりやすい領域で取組みたい。

議事(3)について

事務局より説明後、出席者より以下の発言がなされた。

・内閣府のみちびき(準天頂衛星システム)のHPは動画なども多数載っており、わかりやすくアクセス数も増えているので、参考にしてほしい。

以上